



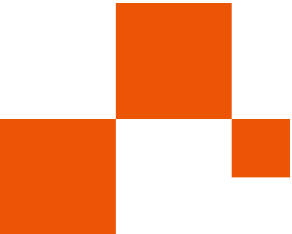
2025/6/13



民間デジタルマネーとCBDCの交換容易性

auペイメント株式会社

au ペイメント



auFG

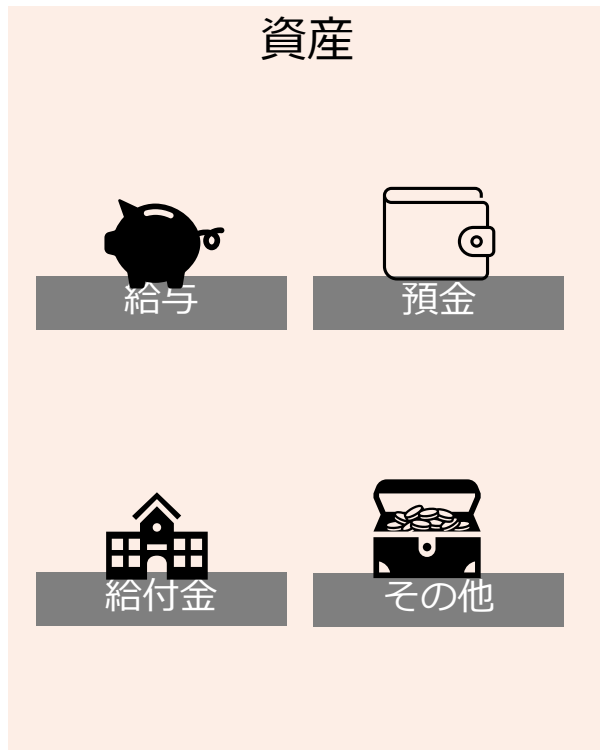


1. 目的
2. 先行事例に見る交換容易性①
3. CBDCとの交換が実現した場合
4. 先行事例に見る交換容易性②
5. CBDCサービス設計
 - ▷ ディスカッション①
6. CBDC導入によるその他環境変化
7. 民間デジタルマネーサービス設計
 - ▷ ディスカッション②

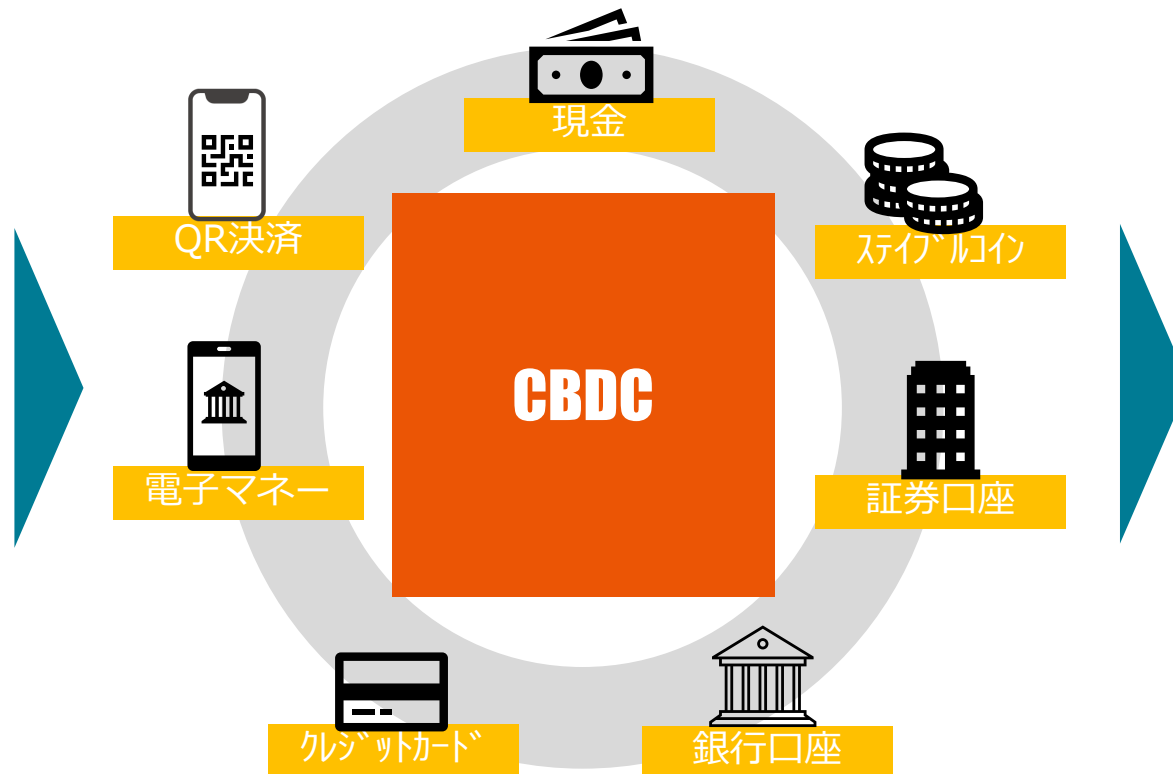
1.目的

- CBDC（中央銀行デジタル通貨）が普及し、他の決済手段との交換容易性が確保されている場合を考察し、WG6「他の決済手段との水平的共存」のなかで想定される課題への対応策についてディスカッションをさせていただきます

資金の入り口



マネーの交換

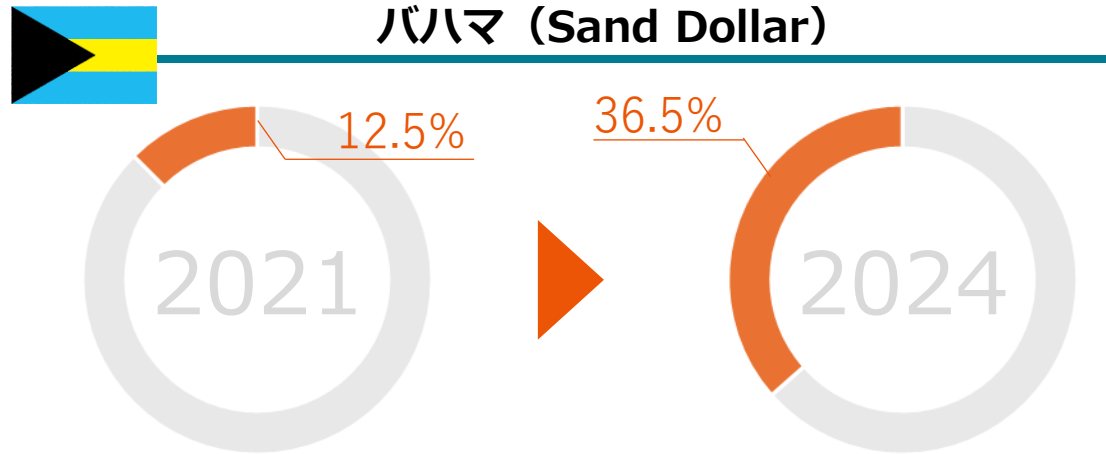


資金の出口

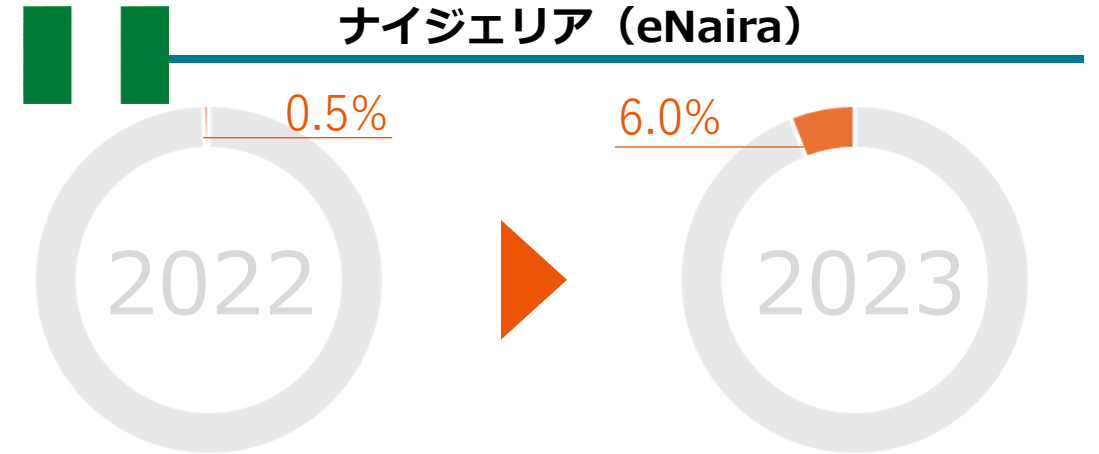


2.先行事例に見る交換容易性①

- CBDC導入済のバハマやナイジェリアの事例では、双方共に導入当初の普及に苦慮
- 交換容易性はCBDC普及率向上のために必要な要素の1つであり、ユーザ利便性を向上を企図した**既存の商習慣にマッチした交換容易性を実現することが普及率向上のポイントと確認**



- 2021 銀行や電子マネーとの接続に対応。
CBDC未保有への送金は既存口座へ自動変換送金
- 2022 統一QRコード導入
- 2023 補助金等をSand Dollar経由で支給
小規模加盟店への決済手数料完全無料化
- 2024 銀行へSand Dollar提供義務規制
全国の一定規模以上の事業者へ受入義務化



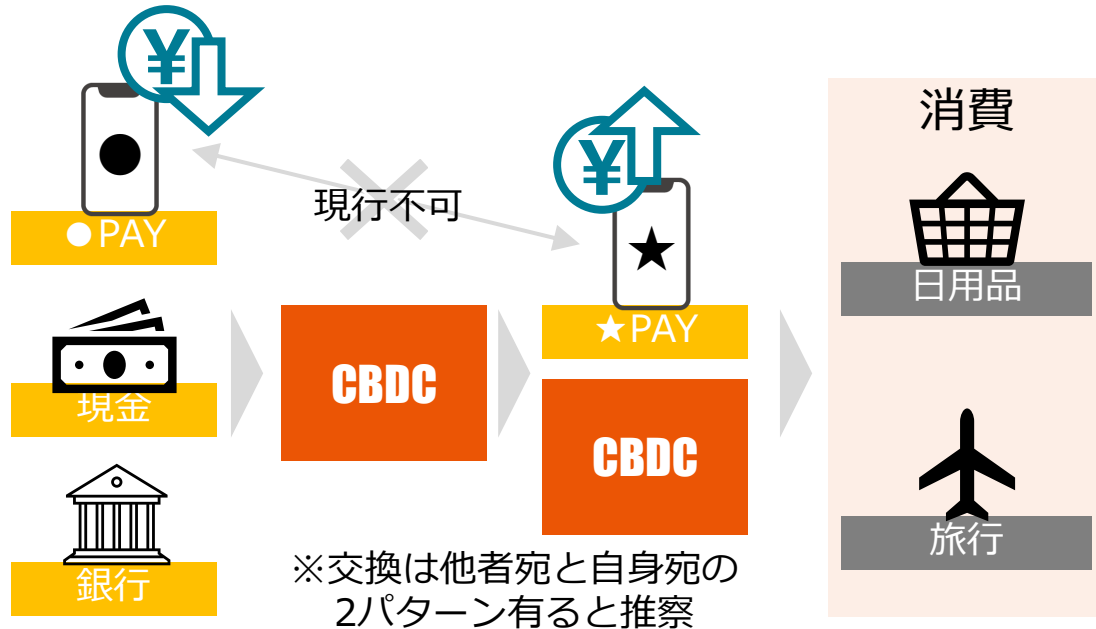
- 2022 通信事業者代理店店頭でeNairaの両替に対応
スマホ・銀行口座不要でeNaira間の送金可
ATMの現金引出額に上限を設ける規制を開始
- 2023 補助金等をeNaira経由で支給
加盟店への決済手数料減免および導入補助

3.CBDCとの交換が実現した場合

- CBDCが導入され交換容易性が確保された場合、ユーザーはCBDCを介して様々な金融サービスとの交換が可能となります
- 出口利用による決済手数料増を企図した競争が高まるため、**出口利用に選ばれやすい民間デジタルマネーはCBDCとの交換を積極的に推進**するものと予想されます。そのため、何かしらの制約・制限の必要性があります

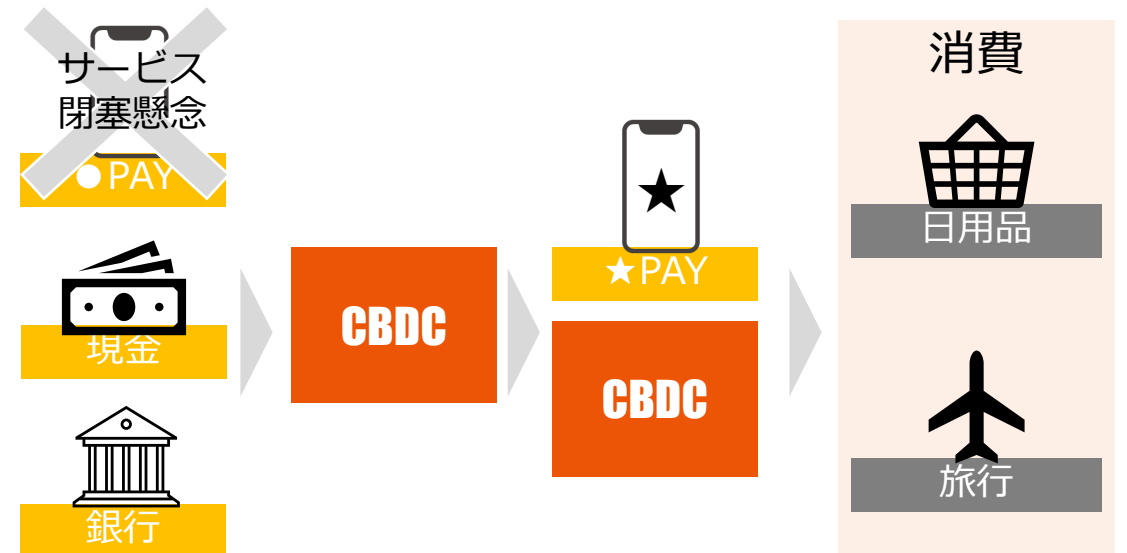
CBDCとの交換が実現

- Payと★PayはCBDCを介して初めて交換が実現
- ★Payは出口利用のため決済手数料増加となるが、
- Payはその逆となり収益機会が減少する



CBDCとの交換が実現し、一定期間が経過

- Payは収益減が持続し、サービス維持が困難となる
- 既存民間デジタルマネーとの共存には、CBDCとの交換や出口利用に対する**キャップ（制限・制約）の必要性を認識**



4.CBDC先行事例に見る交換容易性②

- 先行事例の中国やバハマも既存民間デジタルマネーとの競合は論点となっています
- KYCレベルに応じた保有や決済上限（主目的はAML/CFT対策）、無利息、ポイント付与や割引無し、等により**既存民間デジタルマネーとの共存のために、キャップを設定**しています



中国（e-CNY）

- 2019年からパイロット試験が関係者で開始され、徐々に試験範囲を拡大。
- 個人消費モバイル決済の9割以上をAlipayとWeChat Payが占め、e-CNY登場による当該サービスとの競合、銀行預金の大量転換リスクが議論。



バハマ（Sand Dollar）

- 2020年10月に導入。離島が多く物理的な銀行網のカバーが課題であり、デジタル手段による金融アクセス向上が目的。
- 導入にあたり、商業銀行の預金流出や既存民間デジタルマネーとの競合による市場混乱は論点。

リワード

無利息、ポイント付与・割引なし
（一時的な促進施策の例外は有り）

KYC

KYCレベルに応じて決済上限額設定
※簡易KYC…2千元/回、5千元/日

リワード

無利息、ポイント付与・割引なし
（一時的な促進施策の例外は有り）

KYC

KYCレベルに応じた階層構造
※取引上限設定あり

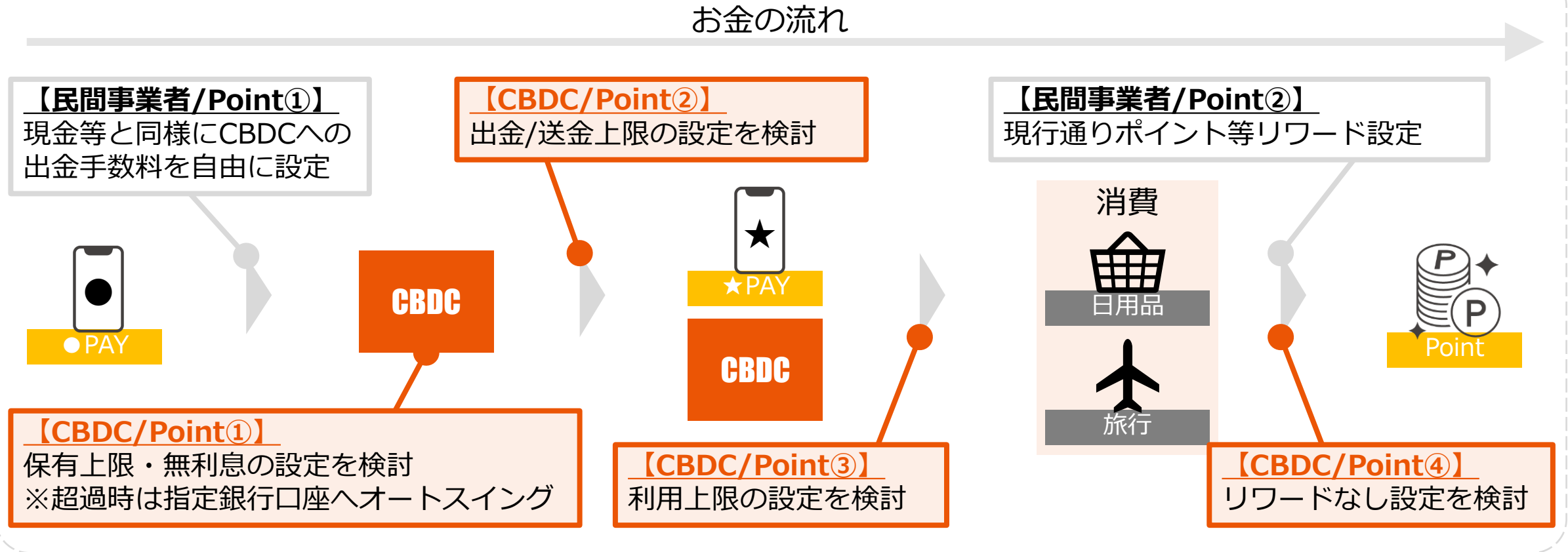
保有上限

残高上限あり
超過時は銀行口座へオートスweep

5. CBDCサービス設計案

- 既存民間デジタルマネーとの共存実現に向け、他CBDC先行事例を参考に、CBDCのサービス設計イメージを作成
- CBDCへは保有・出金/送金・利用の上限等を設ける事により、AML/CFTへの対応と共に、既存民間デジタルマネーとのすみ分けを図っていく設計案としています

■ CBDCのサービス設計イメージ



ディスカッション①

ディスカッション①



CBDCが導入され、民間デジタルマネーとの交換容易性が確保された場合に、
民間デジタルマネーにはどのような課題が生じると考えられますか？



テーブルディスカッション 20min
全体共有 10min



各企業の公式な見解ではなく、**「参加者個人の意見」をベースに自由な議論**をお願いします。
グループディスカッションでは、グループとしての統一見解を出す必要はありません。

ディスカッション②

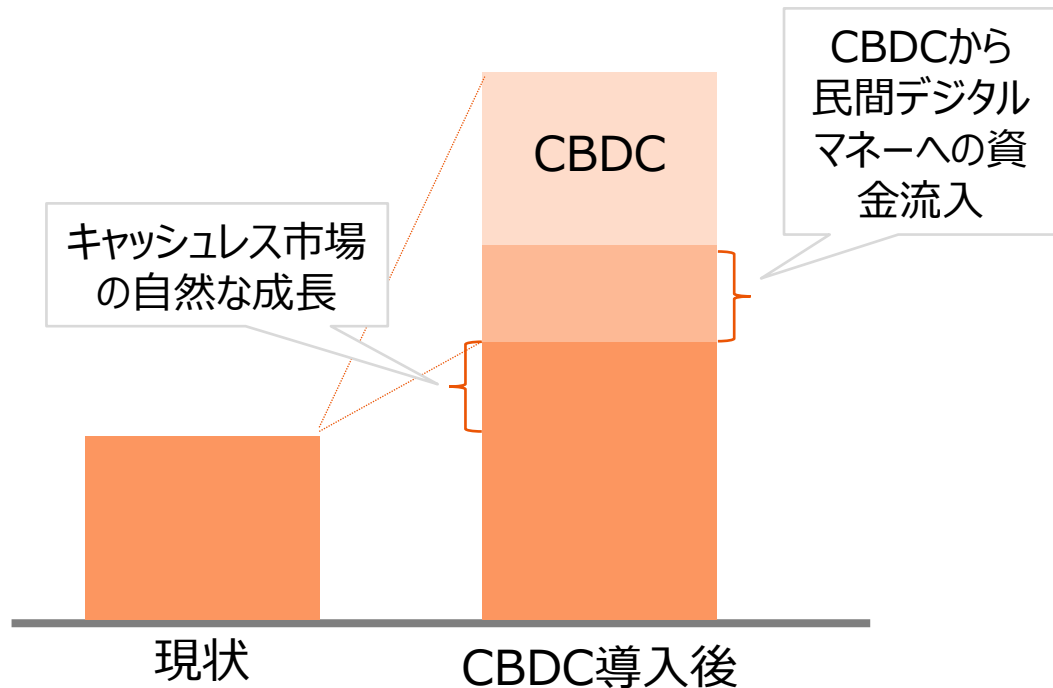
Next Session

6. CBDC導入によるその他環境変化

- ❑ CBDCの拡がりにより、様々な理由でキャッシュレス化できていないユーザー・事業者の参入が進み、地域問わず日本社会全体のキャッシュレス市場が拡大し、CBDCから民間デジタルマネーへの資金流入も見込まれると予想されます
- ❑ CBDC利用加盟店網が拡大する事で、民間デジタルマネー事業者が獲得していない加盟店への接点が新たに追加されます

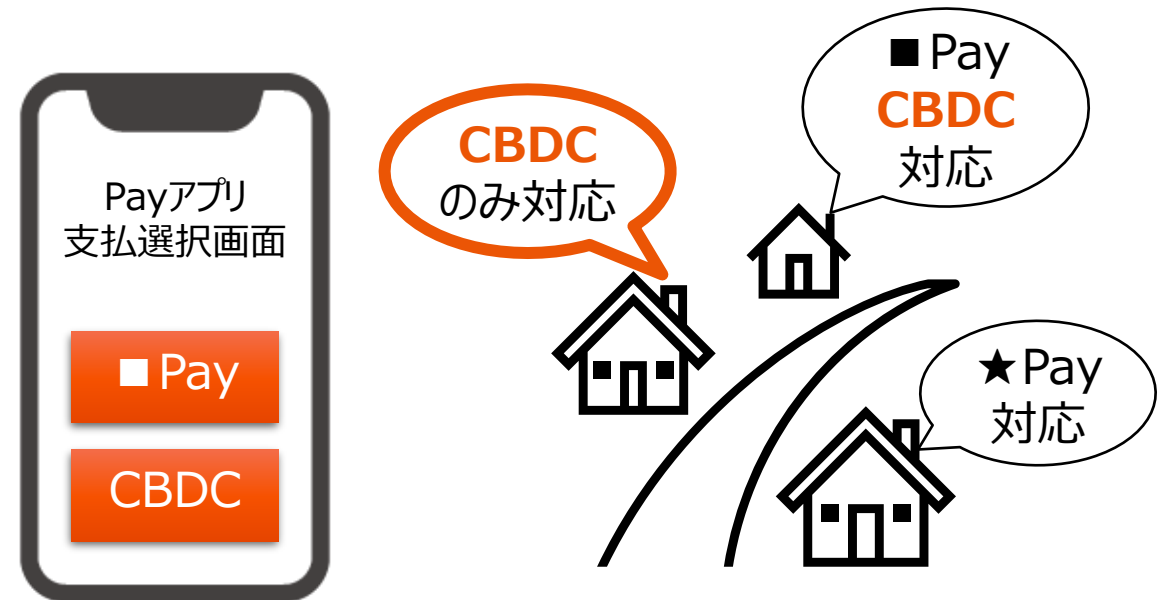
キャッシュレス市場の拡大

イメージ図



加盟店への新たな接点

- 民間デジタルマネー事業者がCBDC決済に対応（2層構造）する事で、（CBDCのみ対応）と新たな接点生まれる。

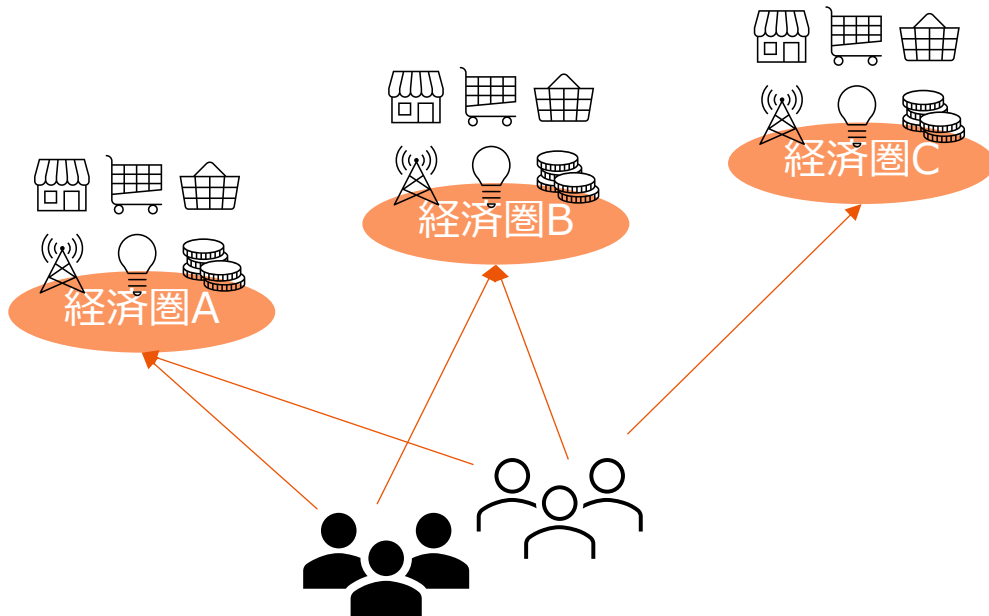


7. 民間デジタルマネーサービス設計

- ❑ CBDCを介した民間デジタルマネーとの交換などによりビジネスモデルが変化。経済圏含む民間デジタルマネーは維持しつつも、CBDCと相互に補完する事でユーザの利便性が高まります
- ❑ CBDCを通じたキャッシュレス導入ハードルの低減により、決済以外の事業者（流通・メーカー・不動産等）の新たな参入が進むことで社会全体のデジタルマネーが成長し、総合的に各経済圏にも寄与する姿を想定しています

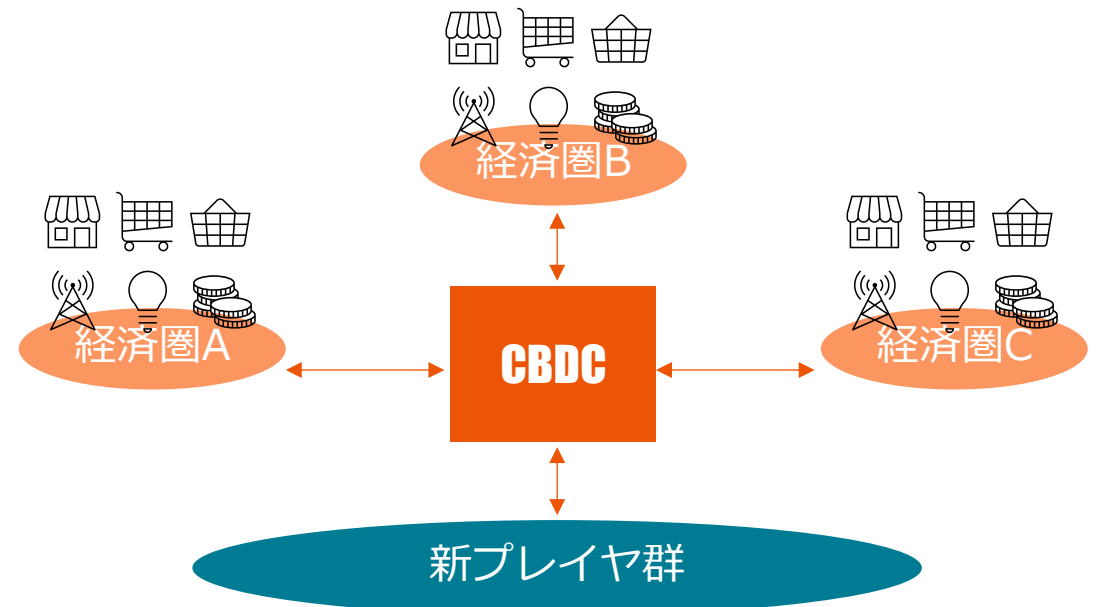
As-Is

- 民間デジタルマネーが、それぞれの自社経済圏の優位性を訴求し、個人消費の取り込みを競争



To-Be

- CBDCと経済圏含む民間デジタルマネーが相互に補完する関係へ発展（加盟店網など）、参入障壁が低下し限定的な経済圏プレイヤー、決済と距離のある事業者も参入検討



ディスカッション②

ディスカッション①



CBDCが導入され、民間デジタルマネーとの交換容易性が確保された場合に、民間デジタルマネーにはどのような課題が生じると考えられますか？



テーブルディスカッション

20min

全体共有

10min

ディスカッション②

CBDCが導入された場合、民間デジタルマネー事業者にはどのような環境変化（サービス設計の変容など）が生じると考えますか？

テーブルディスカッション

20min

全体共有

10min



各企業の公式な見解ではなく、「参加者個人の意見」をベースに自由な議論をお願いします。
グループディスカッションでは、グループとしての統一見解を出す必要はありません。



つながる金融。

私たちは、スマートフォンを起点に、
金融のあり方を人の手のひらから変えていく。
全ての人にとって、
金融をもっと身近なものにするために。